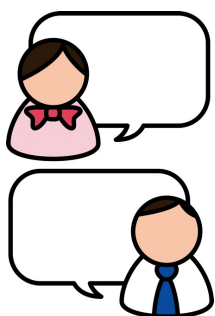


# どれが怪しい言葉？

2人～多人数でできるレクです。言葉を使うだけでなく、そこには戦略も発生するため、脳トレ効果も期待できます。



ジャンル 認知症予防 ゲーム

身体面への効果 指定されていません

精神面への効果 指定されていません

介護度 要介護度2 所要時間 1回戦5分

性別 男性  女性  どちらも好評です 人数 2人～

道具 (一人当たり予算0円)

紙とペン

注意点・追加ルール

期待効果 ゲームは脳トレに、しゃべることで口周りが鍛えられて口腔ケアとなる。

1 2人である場合で説明させていただきます。  
それぞれに紙とペンを渡します。

2 じゃんけんをして先攻・後攻を決め、先攻の人は紙にキーワードを1つ書きます。  
キーワードが何なのか当てるのがこのレクの最終目的です。

3 そのキーワードを会話の中に最低3回以上は含めて、3分間お話をしてもらいます。2  
人でしゃべってもいいですし、1人で最近あったこと等を話されてもいいです。

4 後攻の人は、会話の中に出てきた怪しい言葉を紙に書き留めておきます。

5 先攻の人はキーワードを見破られないように、他にも疑似キーワードとなるような単語  
を会話の中に出現させてかく乱させましょう。

6 3分立ったら、後攻の人はキーワードが何なのか発表します。

7 正解なら後攻の人にポイントが入り、不正解なら見事騙せたことになるので、先攻の勝ちです。  
先攻、後攻を入れ替えて何回戦か行い、得点の高かった方が勝ちです。

8 追加ルールをご紹介。  
キーワードの数を増やす。制限時間を延ばすか、会話中に4回以上言った等の追加ルールも必要。

9 チーム対抗の場合、先攻と後攻を決めた後は  
チームの人と会話をしている様子を後攻は聞き、その中で出てきたキーワードを当てるのがチーム戦です。

10

1人か2人、中立の人を作り、キーワードを何回言ったか記録してもらいましょう。キーワードを当てられなかったら、そのキーワードを言った回数がポイントになります。

11

記録している手元が見えると、直前に言った単語がキーワードだとバレてしまうので、気を付けてください。